

みさせるための ㊦ ㊧ ㊨

(小学校2年生の10月～12月のシュートボール)

実践するにあたって

- ① 2人のコンビネーションをつかう場面は、どういうときなのか。それを成功させるための技術はなになのか。その練習方法もあみだしていきたい。
- ② キャプテンをみんなで決めて、チームわけもみんなで考えさせたい。そして、グループのなかで何が起きているのか、MRIを駆使して探っていくこと。そこからみえてくることは、何か？グループ学習だからこそだと言えることをさがしていきたい。

学習内容 授業の流れ

次	時	○	月日	学習活動	めあて(学習課題)
I	1		10/18	シュート調べ	・シュートの投げ方を思い出す。
	2		10/19	チームづくり(教室→運動場)	・話し合ってチームを決める。
II	3	①	10/22	A練習	・前に敵がいなときは、シュート
	4	①	10/26	A練習(講堂)	・走っていったん止まって投げる。
	5	②	10/29	A練習・試合	・前に敵のいない味方にパス→うけてすぐにシュート。→㊦
	6	③	11/2	いきなりA練習	・味方がうけられるパスをつかおう。
	7	④	11/5	いきなりA練習敵なし・試合	・チャンスを生かそう。
	8	⑤	11/9	いきなりA練習敵なし・試合	
	9	⑥	11/15	いきなりA練習敵なし敵あり	・パスをもらうこつ、シュートのこつ、守るこつを確かめ合おう。
	10	⑦	11/26	いきなりA練習敵あり・試合	・困っていることを出し合い、これからのルールについて話し合う。
	11	⑧	11/29	たしかめの試合	
	12			話し合い(教室)	
III	13	⑨	11/30	新ルールでのゲーム練習	・新しいルールに慣れよう。
	14	⑩	12/6	B練習・試合	・シュート場面での前に敵がいな味方へのパス→うけてすぐにシュート。→㊧
	15	⑪	12/7	B練習・試合	・なにをどんなふうにするばやくすれば、B作戦がきまるのか。
	16	⑫	12/10	B練習・試合	・味方がすぐにシュートできるナイスパスを。
	17	⑬	12/17	チーム練習・試合	・だまし作戦もつかおう。→㊨
	18	⑭	12/20	チーム練習・試合	・チームにとって大事なことをみつけて、練習メニューを考えよう。

考察

この実践では、ボールをもったときの自分の状況をいかに認識できるようにするかについて、考えてばかりいたような気がする。試合の記録にどんなシュートがきまったのかをつけさせた④、⑤、⑥、については、状況を見ることの学習にもなって、効果はあったように思う。敵の美しく決まったB作戦を見て、「しあいでは、あいてがBできめて、それを見てたら（わたしもあんなふうにBをきめたいなー）と思っています」（12/20 4班 H）と書いている。場面を見る力はついてきたのかなと思う。

MR I は、5班で作ってみた。それは、結局最後まで試合で1本もシュートを決められなかったYさんが、最後の試合が終わって泣いていたからだ。Yさんは何を思って泣いたのか、そのときのグループのみんなはどうだったのか。授業の中でどんなかかわり合いをしてきたのか、MR I を作ると何かが見えてくるかしらと半信半疑で作業をはじめた。

MR I を作っていくなかで、Yさんの気もちになってみた。できない子にとっては、先生やまわりの子は自分のできないことを怒る存在なのだと、経験のなかで意識づけられてきたのだろう（反省）。はじめは、なぜ、怒られるのかその理由もわからない。まわりの子も、なぜ、Yさんがじっとしているのか、わからない。「試合に夢中で」と答えられても、あまりにも予想外の答えだったので、T君も「ふ～ん」としか言いようがなかったのだろう。しかし、Yさんの様子を見ていくなかで、Yさんが、どれくらいできて、どんなことを考えているのか、どれくらいわかっているのか、少しずつつかめてきたのだろう。Yさんも、まわりの子のはたらきかけや感想文から、自分のできていることと、できていないことが、少しずつわかってきたのだろう。しかし、こけたときに、「平気や」と言われるよりも、「大丈夫？」と声をかけられたい。いつき君は心から「Yさんは泣かずにがんばっている」と思ったからこそ伝わった言葉かもしれない。いつき君は、Yさんの感情については、わかっていたのだろう。12/17には、Yさんの試合中のことについて、みんなが「なんでおとしたん？」と聞いている。まだここでも、Yさんはみんなに怒られると思っている。でも、みんなは怒らなかった。最後の試合でも、まだ、怒られると思っている。みんなは、怒るところか、Yさんのできるようになったところを伝えてくれた。Yさんの「怒られるだろう恐怖心」をぬぐい去ることはできなかったが、グループのみんなが「なんで？」と聞いてくれるみんなであったり、自分の変化を知らせてくれるみんなであることは意識できたはずだ。それは、わかってできるようになっていこうとする道筋のなかで、お互いに会話して練習したり、感想文を読みあったりすることで、それぞれのわかり具合を確かめあうことができたからだと思う。T君の感想をたてに読んでいくと、なぜ、自分のチームが得点できたのか、相手のチームに得点をいれられたのか、その状況を書いている日が多い。グループの仲間と同じ目標に向かって、自分たちの今の問題点を克服していこうとするとき、まず、何よりも今のグループの現状はいったいどういうことになっているのか、その認識が大事なのだと改めて気付かされた。その目をつくるために、あれこれ考えてきたのだろうか、今、実践を振り返って思う。